

台風第21号及び平成30年北海道胆振東部地震に伴う営農技術対策

平成30年9月7日
北海道農政部

9月5日に本道に接近した台風第21号がもたらした暴風及び9月6日に胆振地方中東部を震源とした平成30年北海道胆振東部地震により、農作物やほ場、施設の破損、停電等が発生しております。

今後の大雨等の気象情報に注意しつつ、次により被害の拡大・軽減に努めてください。特に、収穫期においては、今後の排水対策が農作物の収量や品質の低下を回避させるとともに、的確かつ効率的な農作業を進めるために重要となりますので、随時発表される各気象台の気象情報に十分注意し、次の事項を参考に地域の実態に応じ適切に対応してください。

札幌管区気象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

台風通過後及び地震発生後の注意事項

- 1 最新の気象情報を十分に確認し、作業を行う。
- 2 農舎や畜舎、ビニールハウス、果樹棚などの施設各部の点検、補修を行う。
- 3 殺菌剤の散布は、適正使用基準(使用時期、使用回数)を遵守する。
- 4 停電解消後、すべての電気機器が正常に作動しているかを確認する。
- 5 牛の体調を確認して、異常牛は速やかに獣医師の診察を受ける
- 6 あせりからくる農作業事故に注意する。

第1 共通事項

- 1 道路では路肩が、ほ場ではのり面や周辺の地盤が緩んだり滑りやすくなっている場合があるので、車両の走行は速度を落とし十分注意する。
- 2 農作物については、病害の発生に注意する。特に、収穫時期が近づいている作物に殺菌剤等の薬剤を使用するときは、収穫前の使用期限に注意し、ラベルに記載されている適正使用基準や注意事項を遵守するとともに、隣接する他の作物に薬剤がドリフト(目的外飛散)しないよう散布する。
- 3 格納庫等の倒壊や落下物等により農業機械が破損し、安全フレーム等の機体の変形や、ガソリンタンクや電気配線等の損傷のおそれがある場合には、使用前に整備点検をする。
- 4 地震により、作業環境が悪化している可能性があることから、農作業事故を未然に防止するため、あらかじめほ場や作業道等の周りを点検し、農作業や農業機械の走行に支障がないかを確認するとともに、必要に応じて販売店等に依頼して作業を行うよう指導すること。点検の際は、ほ場や作業道に亀裂、土砂崩れ、噴砂等による損傷がないか確認を行い、ほ場等の損傷に

ついて応急的な補修作業が可能な場合は、安全確保に留意し、復旧を図る

- 5 農業資材の不足への対応については、農業資材店舗等に対し、予定していた資材の確保に支障が生じていないか速やかに確認し、資材調達の不足や遅延が発生している場合には、関係業者、関係団体等と連携をとりつつ、代替品の活用や農作業スケジュールの見直しなど営農技術面での対応方策を定め、今後の営農に支障が生じないように注意する。

第2 水 稲

- 1 崩れた畦畔や土砂で埋没した用排水路・水口は、水が引いた後、速やかに改修、補修する。また、用排水路の草刈り及び水路内のゴミ上げを行い水の流れを確保する。
- 2 泥流や土砂が流れ込んだ水田では、溝切りや明きよを施工し、土壌の乾燥を図る。
- 3 ほ場内に流入した異物は、収穫作業等に支障がないよう、ほ場の外に除去する。
- 4 倒伏したところは、茎葉のムレや腐敗、穂発芽が発生しないよう、密に溝切りを行い土壌の乾燥に努める。
- 5 浸水・冠水及び倒伏した稲は、別刈りとし、品質の低下を防ぐ。

第3 畑 作

- 1 豆類は、ニオが崩れている場合は、畑に入れるようになり次第積み直す。また、支柱栽培の菜豆が倒伏した場合は、速やかに立て直す。
- 2 ばれいしょは、強風による茎葉の折損や降水量が多かった地域では、軟腐病の発生に注意し、ほ場が乾燥したら晴天の日に来るだけ早く収穫する。収穫後は十分風乾し、傷・打撲・腐敗・罹病いもを確実に選別して出荷する。

第4 野 菜

- 1 ハウスの開閉をこまめに行い、ハウス内湿度の低下を図る。
- 2 施設野菜で被覆資材やアーチパイプに被害が発生した場合は、速やかに補修を行う。施設内の作物に被害があった場合は、被害作物の除去、被害部の除去を行い、その後、病害防除を行う。
- 3 野菜類では、作物の傷ついた部分からの軟腐病の感染、また草勢低下と多湿条件の重なりから各種病害が多発する恐れがあるので、病害虫防除ガイドを遵守して薬剤散布を行う。この場合、薬剤散布日から収穫予定日までの日数、及び使用回数を遵守する。
- 4 土壌の過湿によって、だいこんの裂根や横しま症状、にんじんの裂根、キャベツの裂球等が多発する恐れがある。溝切りなど表面排水に努め、収穫期に達したものからできるだけ早く収穫するとともに、品質の劣悪なものが混入しないよう厳しく選別する。
- 5 にんじんは裂根以外にも土壌水分過多で、着色不良、軟腐病・根腐病の発生が多くなる。また肥料が流亡した場合は、黒葉枯病の発生も多くなる。さらに傾斜ほ場では土壌流亡により、青首の発生も多くなる。このため、土壌が流亡した場合は、ほ場乾燥後に培土を行い、黒葉枯病防除を行う。
- 6 かぼちゃは、土壌過湿によっていわゆる「ガンベ」が発生する恐れがあるので、溝切りなど表面排水に努める。また、つる枯病が発生しやすい条件なので防除に努め、収穫後は長期間多湿条件にしないように管理する。

- 7 ながいも、ごぼうのトレンチャー溝が陥没したほ場では、放置するとその後の降雨で雨水が集まり陥没が拡大し易くなるので、通路の土などで速やかに埋め戻しを行う。
- 8 ながいもの支柱が傾いた場合は、起こすように努める。特に採種ほではウイルス株の抜き取りが今後も必要なので、可能な限り起こす。多湿条件で褐色腐敗病や根腐病が発生しやすいので、収穫時の選別を厳しくし、罹病いもはほ場外へ持ち出して処分する。
- 9 ながいものつるが切れた場合は、テープなどでつるにマーキングし収穫時に未熟なものが混入しないようにする。

第5 花 き

破損ハウスの修繕や倒伏した花きの立て直し、迅速な病害防除を実施し、品質低下を最小限にとどめる。また、出荷物については品質保持剤の適切な処理、及び適正な格付と検品を徹底する。

- 1 強風によりハウスが損傷した場合は、早急にパイプの修繕と被覆資材の補修や張り替えを行う。
- 2 強風による花きのなびきや倒伏が見られる場合は、曲がり軽減のため早急に支柱とフラワーネットの固定・調整を行う。茎葉や花蕾部に軽度の損傷を受けたものは、被害部を除去する。
- 3 過湿によって灰色かび病等の病害発生が多くなるので、早めに薬剤散布を実施する。薬剤散布ではハウス内が乾きにくいことが予想される場合は、くん煙剤を利用する。
- 4 収穫・出荷については、土壌水分が多いと採花後の水揚げが劣ることがあるので、品質保持剤処理には十分注意する。被害軽微で出荷する場合は、信用を損なわないよう適正な格付けと検品の徹底に努める。
- 6 トルコギキョウやダリアなどの栽培に係る電照・補光関連施設（電球、タイマー等）については、通電後は速やかに作動状況の点検を行う。

第6 果 樹

- 1 園地に土砂が流入した場合は、根の分布域を優先して除去し、乾燥後浅く中耕し、土壌の通気性、透水性の確保に努める。
- 2 落果実で生食用として出荷可能なものは、傷の程度により選別する。加工用も含め、果実が腐敗しないよう、速やかに冷蔵庫に搬入する。
- 3 落果果実を販売する場合は、使用した薬剤の適正使用基準と収穫日を必ず確認する。販売にあたっては、「落果品」であることを明示する。
- 4 落果実とは、病害の発生や野生動物の餌になりうるので園地に放置したままにしない。
- 5 根がういたり、倒伏した樹木については速やかに起こし、土盛りして支柱にしっかり固定する。
- 6 折損した枝は切り直し、癒合促進のため、切り口には塗布剤(ペースト)を塗布する。また、大枝が裂けた場合は、ボルト、かすがい、縄などで傷口を接着する。
- 7 台風通過後は枝ズレ等により、病害が発生しやすくなるため、スピードスプレーヤーが入れるようになり次第、殺菌剤の散布を実施する。この場合、使用する薬剤の適正使用基準と収穫予定日までの日数に留意する。
- 8 落葉が著しい場合は、残った葉と着果のバランスがとれるよう、枝ズレ、刺し傷など、傷みの激しい商品価値の低い果実を主体に摘果を行う。

- 9 ぶどうのハウスや棚等が破損・倒壊した場合は、速やかに補修する。
- 10 ぶどうの灰色かび病、べと病、プルーンの灰星病、りんごのすす点・すす斑病等、過湿による病害の発生に注意し、速やかに薬剤散布を行う。

第7 飼料作物

適期に収穫できず刈り遅れた飼料作物については、サイレージ調製時に添加剤を使用するなど品質確保に努める。また、家畜への給与の際は品質低下に留意するとともに、飼料分析結果を基に適切な飼料設計を行い給与する。

1 牧草

- (1) サイロ被覆資材（ロールパックの場合はラッピング等）の破損を確認し、認められた際には、ただちに補修する。
- (2) サイロ周辺やロールパック置き場が滞水した場合は、溝切りや水中ポンプにより速やかに排水する。

2 サイレージ用とうもろこし

- (1) 降雨により土砂の付着がある場合は、収穫時の刈り取り高を調整する。また、サイロ周辺の環境を整備し、搬送・踏圧作業時の土砂混入防止を図る。
- (2) 倒伏した飼料用とうもろこしを牽引式ハーベスタで収穫する場合、畦と直角方向に倒れている時は、トラクタで茎葉を踏まないよう走行する方向を選択する。畦と水平に倒れている場合は、雄穂方向から収穫する向かい刈りを行う。

第8 畜舎等施設

- 1 今回の台風及び地震により、畜舎、牧柵、堆肥舎、防鳥ネット等の施設に破損、汚染がないかを確認し、必要に応じて補修、洗浄を行うようにするとともに、特に、水槽や飼槽は、清浄な水で洗浄する。浸水した古い敷料などは運び出し、床面、パーンクリーナの土砂を洗い流し、乾燥させる。
- 2 乾燥後速やかに床面に消石灰を散布するなど消毒し、新しい敷料を敷く。

第9 酪農

1 停電対策

（停電中は、次を参考に対策に努める。）

- (1) 停電で搾乳が不可能な場合は、給水制限をすると同時に濃厚飼料の給与は控え、牛舎や処理室の出入りは最小限にしブレーカーを落とし、通電を待つ。
- (2) 発電機を使用する場合は、農協等の指示に従って手配する。
- (3) 手搾りが可能な酪農家は、泌乳前期を中心に搾乳し、泌乳末期牛は乾乳する。

（停電解消後は、次を参考に対策に努める。）

- (1) 通電後は優先順位に従ってブレーカーを戻し、ミルカーなど電気を動力源とする機械が正常に作動するか速やかに点検する。
- (2) 通電忘れがないか、再度確認する。
- (3) 機器が正常に稼働することを確認できたら、直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物

(通称ブツ)の有無を確認し、乳房炎が疑われる牛の生乳は出荷せず、ただちに獣医師の診断を受ける。

(4) 停電中に発電機を使用した場合、ミルカーの作動が変調する場合がある。早めにミルカーの再点検を受ける。

2 断水対策

(1) 断水の場合はサイレージなどの水分などの水分の多い粗飼料を中心に給与する。

(2) 放牧可能であれば水分補給とストレス解消のために放牧地へ放す。

(3) 大型車による給水に対応できるように、酪農家側は大きな貯留タンクを準備する。

3 乳牛のストレスチェック等と乳房炎対策について

(1) 乳牛は搾乳や給餌作業のずれによりストレスを受けている。食い込み状況や体調不良などの異常牛を確認し、速やかに獣医師の診療を受ける。

(2) 停電中に濃厚飼料の給与量を減らしていた場合は、徐々に給与量を戻す。低酸度二等乳やケトosis等の発生など、異常牛を必ずチェックする。

(3) 環境性乳房炎を抑制するために、乳頭清拭はしっかり行うとともにディッピングは乳頭の根元まで浸漬する。

(4) 乳房炎の多発など、乳牛のストレスが高まっていると思われる場合はセレンやビタミンC、Eなどの給与も検討する。

第10 農作業安全

1 降雨後で路肩が崩れやすくなっており、また地面がぬかるんだり、滑りやすい条件となるため、枕地や農道ではトラクタの走行速度を十分下げ、急ブレーキや急旋回を避けて作業を行う。また、足場が悪い場所では「転倒事故」に注意する。

2 トラクタやハーベスタなどの運転者と補助作業者の間で、事前に発進・停止などの合図を決めて、作業時に意志の疎通が図られるようにする。特に、旋回や後進する場合には周囲の安全確認を徹底する。また、作業員全員が機械の緊急停止を行えるよう停止方法の周知徹底を図る。